

---

# 鳥籠-トリカゴ-【仮】

\*惣\*

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鳥籠 -トリカゴ- 【仮】

### 【Z-ONE】

Z1695Z

### 【作者名】

\* 恽 \*

### 【あらすじ】

自由なんでない、

あるのはバラバラに脱ぎ捨てられた服と、体中に傷めつけられた痣

。

ごくごく普通の高校生だった橘

タチバナ キリ

学校いちの学力をほこり謎につつまれた一ノ瀬

イチノセ トクシン

学校いちの学力をほこり謎につつまれた一ノ瀬

イチノセ トクシン

貧乏だったわたしの家は四年前の父の他界以来、一ノ瀬家のメイドとして働いてた。

その纖細な才能と美貌をもつ少年に棋理は追い込まれてゆく

「 つおねがい やめて 」

「 奴隸はしゃべるな 」

嗚呼、  
神様はわたしを  
助けてはくれない

《《 一時期停滞中です》》

## おじりホルス（繪書き）

ノクターンノベルズへ移転元<sup>アリ</sup>しました！

6月24日に公開になります。

名前は【向 なつひ】として滞在しておつまとして、良ければ遊びにきて下さい。

<http://nkx.syosetu.com/n2794u/>

おじりせテス

鳴かぬなら

鳴かせてみせよつ

ホトトギス。

ギシッ…ギシッ…

今は誰もが暗闇の世界に身を沈め寝静まつてゐるはずの真夜中、一定のリズムで聞こえるモノが軋む音。

明かり一つさえ見あたらない静かな部屋にその妙な音はあきらかに不自然きわまりないモノだった。

ときおり

苦しそうな息づかいかと、何かをこすりあつよう生々しい光景。

わずかに差す月びかりがその影をあらわにする。

どこで道を間違えたのか…、少なからず今の自分には夢も希望もない、絶望しかないのだと

この恨めしい現実に一人取り残されてしまつてゐる。

この見えない、決して抜け出せない鳥籠の中で息をしてゐる。

どんな傷ついた醜い紛いものでも生きているのだと知つた。

醜い紛いものが自分であるのが女々しい…。

わたしがここに務めて何故このような悲惨なめに遭うのか…。

いや、悲劇は父が他界した四年前から始っていたのかも知れない。  
。

「『機嫌よつ

「まあ、『機嫌よつ

輝かしいテラスの中央に清楚ながらも気品あふれ、制服を着飾つ  
ている少女たちが朝のあいさつをしていた。

天井にはとても大きなシャンデリアがあり、宮殿のようなこの建  
物がまさか学校だとは誰も思わないだろつ。

なにせここはセレブのお嬢様、おぼっちゃま達が通つ有名な聖マ  
リン神制学園なのだ。

セレブとだけあって建設物や食事、授業内容の設備は何億というお金をかけている並々でない学園だ。

成績やスポーツもエリートばかりで、例外でお金を払って通つている生徒はいるが、基本この学園は学生達の“華”として崇められている。

四年前に一ノ瀬家に拾われてから、ありがたいことに学校にまで通わせてもらつていた。

本当に心から一ノ瀬家の援助には感謝しなければならない。

しかし、わたしはそれを素直に喜べていない。  
なんたる不届き者と思われるかもしれないが、仕方がない。

いや、そう思われるがおえない…。

自分がどういひとこひよりも周りがわたしを受け付けないのだ。

まるで虫でも見るような眼で…。

「…」「機嫌よつ

「みて…」

「行きましょ」

小声でひそひそと耳打ちをして眉をひそめられる。

ああ またあんな眼をされる

愉快に会話していたお嬢様たちに素通りは失礼と思い、頑張つて挨拶をしたものやはり汚らわしこと云つよつな冷たい眼でみられては去つてゆく。

雲のうえのよつなこの場所にただのメイドがいるところなどまづらぬ場違いでしかない。

一人瀬家のメイドとして働いてることは秘密にしておつ、格安な身分は明かされていないのだが地味な外見が一般庶民と云つてをもの語つていた。

なぜなら、ほとんびのセレブが明るいキャラメル色をした茶髪に巻き髪やサラサラストレートに対し、

自前の黒髪で一様手入れはしてあるもののセレブのよつな艶は無

くおまけに眼鏡もかけているともなればソノ差は歴然だらう。

わたしが地味すぎる前に、やはりセレブそいゆう微妙な違いを数秒もみないうちに分かつてしまつのだ。

「トトトトトロウフラー」の音が響く大理石の上でわたしそぼつんと暫く立つていた。

もうすぐ予鈴のベルが鳴る。早くかないと……。

ハツとして足を踏み出したとき

「……つ……」

ズキリと下腹部に痛みが走つた。

思わず「うう、と身を縮めした唇を噛みしめる。

ああ……これは昨夜の……。

治りかけていたソコは不十分で、その穴に容赦なく入つてきたこ

とにより傷口はまた開いてしまった。

そつと足を動かして歩く様子はびつみても不自然で可笑しいだろう。

幸いテラスにはわたしだけになつていたので恥ずかしい姿は見られなくてすんだ。

お腹に手をあててさすりながら昨夜のことを思い出す。

乱暴に本能のままに動く彼は恐ろしい野獣のようだった。

風呂場で鏡に映る自分の姿に睡然したのを覚えている。

体中につけられた痣や切り傷がその様子を痛々しく刻んでいたのだ。

腕の裾をめくると手首に青紫色の痣がくっきりついていた。

行為の最中に強く束縛されていた痣。

「……ひく……」

それを見ると涙が止まらない。すぐさま眼にたまつた霧をはらった。

「ひまわり園、誰がみたらいいと説しまる。ひまわり園えなけれども。」

『ハーバードストアード』

田々の訪問ありがとうございます。

この度、この間あつてR-18サイトの方に移転先へしました(・・・)

名前は【向 なつひ】として滞在しておつまじて、負ければ遊びにきて下れ。

<http://nkx.syosetu.com/n2794u/>

お手数かけて申し訳あつません。

読者様

愛しています！！

誰

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1695n/>

---

鳥籠-トリカゴ-【仮】

2011年8月22日16時31分発行